

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏之門45番地		
自己評価作成日	令和 2年 1月 9日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393400128-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393400128-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年1月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様個々の生活スタイルを尊重し、家庭的な雰囲気を感じて頂けるように努めている。</li> <li>・クリニック併設のため医療への体制や緊急時の応援体制は速やかにできている。</li> <li>・法人理念「絆～人と人とのつながり～を大切に」に基づいて、地域とのつながりを大切にし利用者、家族、職員が笑顔の絶えないホームを目指している</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当ホームは、同一建物内にクリニックやデイケア等の医療機関に併設している利点を活かし、医療面での支援が充実していることがホームの特徴でもある。協力医との医療面での日常的な連携を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われており、利用者の中には身体状態の重い方もホームでの生活を継続する支援が行われている。併設の医療機関とも連携しながら、利用者の看取りを含めた支援も行われている。定期的な運営推進会議の際には、法人代表者でもある併設の医療機関の院長も出席しており、会議を通じて、出席者とのホームの現状や医療面での情報交換の機会にもつながっている。会議後には、併設の事業所との合同で行われている避難訓練に立ち会ってもらう機会もつくり、出席者にホームを含む事業所全体の取り組みを知ってもらう機会にもつながっている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・スタッフ詰所・共同生活場に掲示してある ・毎月一回のミーティングにて理念の朗読を行い常に意識し理念に基づいた支援を心がけている	運営法人の基本理念でもある「絆」をホームの支援の基本と考えながら、毎月の職員会議で唱和を行う等、職員への周知や働きかけが行われている。また、日常的にも理念をフロア内に掲示してあり、日常的な実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・保育園、地域ボランティアの方が月に一～二回来所され交流を行っている。	地域の方との交流については、併設事業所とも連携して行われており、年間を通じて地域の子ども未来園(保育園)との交流の機会がつけられている。また、併設の医療機関が長年にわたり開業していることで、日常的な交流にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議にて話合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の家族、民生委員の方からの意見をいただきサービスに反映し、職員間で情報共有を「行いサービスの質の向上に努めている。	会議に際には、ホームの運営状況を写真も活用しながら詳しく記載した資料を用意しており、出席者にホームの取り組みを知ってもらい働きかけが行われている。また、会議に法人代表者である院長も出席しており、医療面での情報交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に出席していただき実情の報告を行っている ・事故報告や分からないこと等は、市の窓口、電話等で連携を図っている。	市内のグループホームとの交流会の機会がつけられており、ホームからも職員が参加することとしている。併設の事業所を通じた情報交換等も行われている。市の介護相談員の訪問を通じた情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・施錠に関しては夜勤帯で一時的に行う事があるが、それ以外は行っていない。 ・院内での身体拘束の研修を年2回実施し、職員は参加し抑制しないケアを周知徹底している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、職員間で利用者の見守りが行われている。また、専門の委員会を通じた検討会議の実施や職員研修の際には疑似体験を行う等、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・常に意識し防止に努めている。また、ミーティングで不適切なケアについて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者のなかに、日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、職員が学ぶ機会となっている。 ・権利擁護の研修に参加していないため、理解に欠けていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より「重要事項説明書」の説明を行い、同意のもと入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族来所時、必ず声を掛け意見・要望をお聞きし職員間で共有し、運営に反映出来る様に努めている。 ・運営推進会議においても意見等をお尋ねし、苦情受付窓口を設置している。	ホームで行われている行事等に家族にも案内を行い、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、管理者2名の体制であることで、内容にも合わせて伝えることができる体制がつけられている。また、年2回のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回のミーティング、会議、個人面談等で機会を設け反映させている。	ホームでは、ユニット合同で職員会議が行われており、職員間で意見交換を行いながら、職員の意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員との個別面談の機会をつくっており、一人ひとりの把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・自己目標、自己評価を整理して年2回管理者と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・認知症介護実践者研修を受ける機会を設けている。 ・毎月一回勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・職員が他の事業所の方と接する事がない為、出来ていない。 ・今後、犬山市内のグループホームの集まりに参加し交流は図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・不安、要望が話せるように個々に沿ったコミュニケーションを図り、信頼関係を築くように絶えず努力している。また、入居者同士の会話も傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・意見、要望を聞きか信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要としている事を優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活を共にする家族という意識を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・居室に思い出の物や写真を飾り、家族を意識出来る様努めている。 ・家族との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会に来られた際に感謝の気持ちと、また来て頂ける様な声掛けを行っている。	利用者の中には、入居前からの関係の方が併設の医療機関に受診する機会が得られており、利用者との交流の機会にもつながっている。ホームの近隣に馴染みの美容院がある方に、ホームからも支援する取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや会話に職員も関わる事で、孤立しないよう支援に努めている。 ・気の合う入居者同士を見極めて、食事の席など配慮行い良好な関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・お見掛けした時に、声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の生活リズムを尊重し、思いや意向の把握に努めている。	日常的に利用者に関する情報を職員間で共有しながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月の職員間で利用者に関する情報交換の時間を設けており、利用者の意向等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族からの細かな情報収集やご本人からお聞きしたりする事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々のケアでの気づき等を介護記録をし、スタッフが現状把握出来るよう努めている。 ・毎月一回のミーティングで入居者の変化について話し合う機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・できていると思う。	介護計画については、利用者の変化等に合わせながら6か月での見直しが行われている。日常生活に合わせて介護記録に記録を残しながら、日常の生活場面に合わせた独自の様式を活用した3か月でのモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送りや介護記録にて職員間の情報共有を行い実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の状況やニーズに応じた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・クリニック併設の施設のため常に医師・看護師が支援している。	併設の医療機関と連携しながら、定期的及び随時の医療面での支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、管理者が看護師でもあることで、医師との連携や利用者の状況に合わせた医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調の変化や緊急時など看護師と相談し、情報を共有している。必要時は迅速に受診が行われるよう連携を図っている。また夜間の緊急時にも看護師に連絡、相談する体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・行えている。	ホームでは、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、併設の医療機関との連携を行いながら、ホームでの生活の継続につなげている。また、併設の医療機関への入院対応も他にも、ホームでの看取り支援にも対応する取り組みも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時対応マニュアルがある ・勉強会で学んだが訓練がないため実践力は身に付けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を行っている。(二回/年) ・防災自主検査を毎月一回行っている。 ・令和元年11月28日地域の方々と避難訓練実施	併設の医療機関とも連携しながら避難訓練を実施しており、職員間での協力関係に取り組んでいる。運営推進会議を通じた避難訓練を実施し、会議の出席者に取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、備蓄品を建物1階のスペースに確保している。	ホームのフロアが建物の3階にあることで、利用者の避難経路が限られているため、非常災害時における迅速な避難が課題でもある。現状の取り組みを継続し、医療機関全体での連携した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々に合わせた声掛けや対応をしている。	職員の倫理規程に管理者からの注意事項を記載し、ホーム内に掲示することで、職員への注意喚起や日常的に職員が利用者への対応を意識する機会につなげている。また、利用者への対応に関する職員研修の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・コミュニケーションを密にし、日々の会話の中で希望を傾聴している。 ・「～ませんか」と言葉がけを行い、自己決定できるように話を進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・可能な限り個々のペースを大切にしている。 ・行動の制限や強要しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着る服を選んで頂いている。 ・衣類が汚れたらその都度、替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員と会話しながら食器やテーブル拭きをされています。 ・レクリエーションにておやつ作りを取り入れ、個々に飾りつけ、形など楽しんで行っている。	食事については、併設の医療機関の厨房から提供されているが、ホームのキッチンで盛り付けや利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応が行われている。ホームのキッチンを使用したおやつ作りの取り組みを行い、利用者の楽しみにつなげている。	日曜日の朝食については、ご飯からパン食に移行したことで、食事を通じて、利用者の生活にも変化が生まれている。食事の提供に関するホームでの継続的な検討に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・メニューは栄養士が作成し、カロリーの管理を行っている。食事形態は個々に合っているものを見極めながら提供している。 ・食事量、水分量、排便チェック、毎月一回の体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの言葉がけを行っている。介助が必要な入居者は職員が一部介助または全介助をしている。義歯装着者は夕食後は外しポリドントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排尿パターンを把握し、日中はトイレ誘導を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせて排泄支援につなげる取り組みが行われている。管理者が看護師でもあることで、併設の医療機関からの排泄に関する職員への指示事項や随時の連携が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分量をチェックし適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴予定表はあるが、体調・本人の意思により柔軟に対応している。	入浴の準備を月曜日から土曜日まで行っており、利用者は週2回の入浴している。入浴を拒む方にも毎日声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。また、浴室に特殊浴槽が設置されており、身体状態の重い方への対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・空調に配慮行い、個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。 ・日中の活動充実させることで、夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤の用法、用量、注意点が理解し服薬支援できるよう薬剤情報がファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・レクリエーション、散歩、足浴等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族と外出される方が多い。	季節や天候にも合わせながら、ホーム建物から駅前までを散歩したり、近隣にある美容院に出かける等の機会がつけられている。季節の外出行事として花見が行われているが、現状の外出支援は限られた状況でもある。	現状、様々な状況もあり、利用者の外出が限られた範囲となっているため、今後に向けて、職員間で外出の機会が増える検討、取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者は現金を所持していない。 ・ご家族から預かり金という名目でお金を預かっており、必要時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日、掃除を行い清潔が保てるように努めている。 ・季節の花を飾ったり、四季を感じられるフロアの壁飾りを行い、居心地の良い空間づくりに努めている。	ホームのリビングがユニットにより異なっていることで、利用者はユニットで異なった生活環境で過ごしている。リビングに季節に合わせた飾りを行ったり、利用者の作品を掲示する取り組みは、ユニットで共通している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用フロアにソファを置き、そこで座りお話しして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室に写真を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間づくりに努めている	居室内が広めの空間が確保されていることで、身体状態の重い方も居室内を広く活用することができる利点がある。シンプルな居室も方もいるが、利用者や家族の意向に合わせて、好みの物等の持ち込みが行われている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレの場所をわかり易く大きな字で表示する等、安全で自立した生活が送れるように努めている。居室ドアには自分の部屋と分かるように大きく名前が貼っている。		